



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ケムリノキ ～

日本樹木医学会富山県支部
樹木医 西村正史

最近、緑日でおなじみの綿菓子によく似たふわふわした固まりをたくさんつけた花木を、県内の個人宅の庭でよく見かけるようになりました。これはケムリノキといい、外国から入ってきた花木です。

1 特徴

ケムリノキは、ヨーロッパ南部、ヒマラヤ、中国を原産地とするウルシ科ハグマノキ属の落葉低木で、雌雄異株です（写真1）。スモークツリー、ハグマノキ、カスミノキとも呼ばれています。高さは3～5mほどになり、よく枝分かれます。

花は目立ちませんが、5～6月に咲きます。雌株では花が咲いた後に花柄が糸状に伸びて（写真2）、綿菓子あるいは煙のような独特の形になります（写真3）。しかし、雄株では花柄があまり伸びないので、写真2、3のようにはなりません。

暑さや寒さに強い花木です。しかし、根は比較的浅く、また枝が細く伸びるため、風の影響で樹木が倒れたり枝が折れたりすることがあります。そのため、強風が直接当たらないような場所に植栽します。

2 管理

日当たりと水はけのよいところに植えます。暑さに強いので、地植えの場合は植えつけ直後を除いて、よほどの日照りが続かない限り、水やりを行う必要はほとんどありません。

枝がよく伸びますので、樹形を整えるため、毎年の剪定は欠かせません。剪定の時期は、落葉時の12～2月ごろが適期です。その時にはすでに花芽が出ていますので、強剪定は避けるようにします。

病気や虫に強い花木ですが、うどんこ病やカイガラムシが発生することがあります。前者の場合はトップジンM水和剤（2000倍液）、トリフミン水和剤（3000倍液）等で、後者の場合はスプラサイドM（1000倍液）、マツグリーン液剤2（250倍液）等で、それぞれ対応してください。

なお、写真1～3はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真2 花後の花柄の伸び（2013.6.18撮影）



写真1 雌株のケムリノキ（2018.6.18撮影）



写真3 綿菓子あるいは煙のような独特の形になった枝先の花序（2013.6.18撮影）